

赤平市

AKABIRA

市勢要覽





赤平市のランドマーク —— 交流センターみらい

市の中心部に建つ交流センターみらいは、赤平市のランドマークとして市界のカントリーサインに描かれるなど、立坑やぐらと並んで市のシンボリックな建物となっています。

ホールや研修室を備え、各種行事・会議や文化活動拠点として市民に広く利用されています。また、正面の広場では毎年納涼盆踊りや産業フェスティバルが開催され、賑わいを見せます。

内部には JR 赤平駅を併設し、広場周辺には都市間高速バスの停留場もあることから、赤平市の玄関口としての役割も担っています。



災害に万全の備えを

滝川地区広域消防事務組合赤平消防署の消防総合庁舎が 2015 年 12 月に落成しました。

赤平は比較的災害が少ない土地柄ですが、やはり災害はいつ襲ってくるかわからないものです。地震に強く自前の訓練設備を備える新庁舎は、以前と比べてより一層、災害対応機能を充実させた建物となっています。また、市民対象の講習会を行うスペースもあり、防火防災意識の高揚につながるものと期待されています。




日常の火災・救急出動のみならず、災害に備える消防体制の整備で、市民の安全・安心な暮らしを支えます。








アクセス




札幌市から

-  自動車 札幌市－道央自動車道札幌 IC－道央自動車道滝川 IC－赤平市 (約 1 時間 20 分)
-  バス 札幌駅前ターミナル－赤平駅前 (約 1 時間 40 分)
-  JR 札幌駅－滝川駅－赤平駅 (約 1 時間 10 分)

新千歳空港から

-  自動車 新千歳空港－道央自動車道新千歳空港 IC－道央自動車道滝川 IC－赤平市 (約 1 時間 40 分)
-  バス 新千歳空港－札幌駅前ターミナル－赤平駅前 (約 3 時間)
-  JR 新千歳空港駅－札幌駅－滝川駅－赤平駅 (約 1 時間 50 分)

旭川空港から

-  自動車 旭川空港－道央自動車道旭川北 IC
－道央自動車道滝川 IC－赤平市 (約 1 時間 20 分)
-  交通機関 【バス】 旭川空港－旭川駅 (乗換え)
-  【JR】 旭川駅－滝川駅－赤平駅 (バスと JR で約 1 時間 30 分)



産業・ものづくり

Industry &
Manufacturing



赤平は小さいです。でも、小さいから、市民の考えが市政に届きます。

赤平は田舎です。でも、札幌まで1時間でいけます。おまけに、田舎だから土地が安いし、渋滞もないです。

赤平は昔、炭鉱があったので知恵と技術のまちです。これからの競争激化の時代、工業にしても農業や商業にしても、知恵と技術で新たな価値を生み出すことが大事です。赤平はそれができます。

できることがある限り負けではありません。赤平は希望に溢れています。

株式会社植松電機 植松 努さん





1 エースラゲージ

2 いたがき

3 空知単板工業

4 北海道加ト吉

5 赤平製紙

6 岡田水産北海道

7 北海道大賀クロージング

8 赤平オーキッド

9 植松電機 ロケット打ち上げ体験

優良企業が集まるものづくりのまち

「鉱業から工業へ」。炭鉱全盛のころから工業団地に道内外の企業を誘致し、多くの工場が操業していました。炭鉱閉山後は市内の産業と雇用を守ろうと、鉱業から工業のまちへの転換がはかられてきました。

市内ではカバンや革製品、トイレットペーパーなどの紙製品、冷凍食品や水産加工食品、衣料品などがつくられています。身近にある名の知れた商品（ブランド）、実は「MADE IN 赤平」かもしれません。

また、コチョウランなどの花卉生産も行われ、らんフェスタや各種行事で華やかさを演出しています。

他にも、精密機械部品や工業用磁石、単板や建築部材といった木材加工品など、多種多様な製品のいずれもが質の高い技術をもとに生産されています。

「ふるさとガンバレ応援寄附金（ふるさと納税）」で市内企業がつくる製品を返礼品として出品したところ、遠く道外からも寄附の申し出を受け、大変多くの反響をいただきました。

「赤平市しごと・ひと・まち創生総合戦略（地方版総合戦略）」では優良企業・働く場所が市内にあるということが赤平の強みととらえ、「仕事が人を呼び込み、まちをつくる」とい

う考えて、赤平のまちづくりを行っています。

市内ではものづくりの精神を育む取組が盛んに行われています。「産業振興人財育成事業」や「あかびら匠塾（たくみじゅく）」では、市内企業で働く若手職員や技術者が業種の垣根を越えて集まり、技術の向上や広報・プレゼンの方法など、さまざまな研修を深めています。また、子ども対象のものづくり体験会やPR活動を通じて、将来の技術者育成・技術継承に取り組んでいます。

元気な企業、元気な人がものづくりのまちを支えています。

まつり・イベント

Festival



まちの灯を消さないという想いから始まった「あかびら火まつり」！
私たちはその中で、かつて炭鉱のまちであったことを伝承するために、赤いふんどしを締めた若者たちとタイマツを持って市内を走り、クライマックスで炭鉱の象徴であるズリ山に火文字を浮かび上がらせています。この赤フンは一度締めるとやめられないと評判でリピーターの参加者がたくさんいます。

ズリ山の火文字を点火する瞬間は何度見ても感動します。この熱い7月の赤平にぜひお越しください！

あかびら火まつりやらん会 南 隼和さん





- 1 あかびら火まつり 赤フンランナー
- 2 あかびら火まつり 火神輿
- 3 らんフェスタ赤平
- 4 産業フェスティバル

らんフェスタ赤平 (4月)

赤平市はコショウラン生産が盛んなまち。「らんフェスタ赤平」は4月に開催される道内最大規模の蘭のイベントです。

道内各地で育てられた蘭愛好家の花や珍しい蘭が集まり、雪解けの季節を待ちわびた多くのファンが来場されます。会場入口に生けられた大きな「迎え花」(花のオブジェ)や、ゴールドenリボン賞を受賞した蘭の周りには、さまざまな角度からカメラを向ける人の姿が見受けられます。

北海道の春は赤平から—

来場者を魅了する蘭とともに、赤平に春が訪れます。

あかびら火まつり (7月)

赤平の夏の風物詩にして最大のイベント「あかびら火まつり」は7月第3土・日に開催されます。

赤平神社で採火した炎は赤いふんどしを締めたランナーが持つタイムツに灯され、平岸・住吉・共和の3地区から市内を駆け巡り、勇壮な「火太鼓」が迎えるメイン会場に運ばれます。その火がズリ山に「火文字」を灯し、「火神輿」に受け継がれるようすは、荒々しくも、おごそかな空気を感じられます。

暑い季節にまちも人も赤々と燃え上がる2日間。熱い感動がこみ上げます。

赤平産業フェスティバル (10月)

収穫の秋。食欲の秋。そして“ものづくり”の秋。10月は「赤平産業フェスティバル」の季節です。

飲食ブースには、ご当地料理や話題のスイーツがずらりと並び、すぐお腹いっぱいになってしまいます。新米や新鮮野菜の直売もあり、家に帰ってからも赤平の旬を楽しめます。

赤平市はものづくり企業が集まるまちでもあります。全国や世界にも通用する高い技術でつくられた製品を手にとると、赤平の底力を感じられるはずです。

赤平って実はすごいまち。そんな魅力を発見できるお祭りです。

観光

Sightseeing



風光明媚、百味飲食はどこにもあり、どこも主張する。この町はシャッター商店街が連なり、人が離れた家屋も少なくはない。産炭地としての栄華は薄れ、忘れ去られようとする「名もなき町」なのかもしれない。

でも、この町は笑顔で溢れている。真冬にはマイナス 15 度にもなるが多くの温もりを感じられる。素敵な人々がいる町。町は人が作り出すもの。素敵な人々がいる町はすなわち、素敵な町なのだ。

株式会社クリエイティブオフィスキュー 鈴井 貴之さん (赤平市出身)





1



2



3



4

1 エルム高原 彫刻公園サキヤマ 2 家族旅行村

3 ズリ山 火文字 4 ズリ山階段広場 スノーマンづくり世界記録

エルム高原リゾート

日帰り温泉、貸別荘式コテージ、そしてイベントやキャンプを楽しむ自然公園・オートキャンプ場で構成される「エルム高原」。国道から少し山に向かっただけで、自然豊かな高原リゾートが広がります。

日帰り温泉「ゆったり」には市民やキャンプを楽しむ観光客が集まり、その名のとおり「ゆったり」と疲れを癒すことができます。

コテージ「虹の山荘」は温泉に隣接して6棟あり、生活家電や寝具もそろっていて、別荘感覚で宿泊を楽しんでいただけます。

自然公園型キャンプ場の「家族旅

行村」と「オートキャンプ場」では、春から秋にかけて（たまに真冬にも）キャンプを楽しむ家族連れ・仲間連れのテントが並び、気軽に出かけることができるキャンプ場として多くのリピーターに親しまれています。バーベキュー、川遊び、昆虫採集など、日帰りの方にも人気です。

また、家族旅行村内には世界的著名な彫刻家である流政之氏の作品が広範囲に屋外展示されていて、彫刻公園としての一面も持っています。すべての作品を見て回ると、芸術鑑賞をしながら適度な距離の自然散歩を楽しむことができます。

777段 ズリ山階段

交流センターみらい（赤平駅）の裏側にどっしりと構えているのは、石炭の選炭作業で出た廃石（ズリ）が捨てられてできたズリ山。そこにまっすぐ伸びる777段の階段は、ズリ山階段として日本一の段数を誇り、積み上げられたズリの高さが往年の石炭生産量を物語ります。

あかびら火まつりではこの階段を赤いふんどしを締めた点火ランナーが駆け上がり、ズリ山に「火文字」を灯します。

頂上からは赤平のまち並みを見下ろすことができ、観光客やウォーキングをする市民が訪れます。

食・農業・特産品

Food & Agriculture & Specialty goods



あまり知られていないかもしれませんが、赤平には新鮮野菜や手づくり無添加みそなどたくさんの美味しいものがあります。中でも赤平米「ゆめぴりか」は農薬使用を抑えた特別栽培米としてブランド価値を高め、ふるさと納税の返礼品などでも非常に人気です。

また、ホルモンが入ったみそ味の鍋「がんがん鍋」は、市内の飲食店でそれぞれオリジナルの味を楽しむことができます。そして今、市民のソウルフードである鳥あしのから揚げ「あかびらホットレッグ」を、新しいご当地名物としてPR中です。皆さん一度は、赤平の美味しいものご賞味ください。

赤平市特産品推進協議会 奥井 正勝さん





1 がんがん鍋

2 あかびらホットレッグ

3 赤平のスイーツ

4 AKABIRA ベース

あかびら人が愛する味

がんがん鍋は豚ホルモンと豆腐・野菜のみそ煮込み鍋。「ストーブでがんがん煮込んで、がんがん食べて、がんがん働く」という、かつての炭鉱長屋の思いがこめられた料理です。

ホットレッグはパリパリでジューシーな鶏足のからあげ。もともと市内のイベントでは行列ができるほどの人気商品。これを赤平名物として広くPRし、今イチオシのご当地フードとして売り出し中です。

石炭の形を模した塊炭飴をはじめ、パンやスイーツは昔懐かしい雰囲気と味わいを残しつつ、各店で新商品の開発にも意欲的に取り組んでいます。

あかびら自慢のお米たち

イルムケップの清らかで豊富な水が、赤平の稲作を豊かにします。

米の作柄は道内の中でも安定しており、良食味・高品質米の安定的な生産を行っています。また、コスト削減に向けた機械の共同利用や減農薬などのクリーン農業にも取り組み、さまざまな農業の形を模索しながら、売れる米づくりを目標に「ゆめぴりか」、「きたくりん」、「ななつぼし」といった品種を栽培しています。

赤平産の特別栽培米はJAを通じて首都圏でも販売され、「ふるさとガンバレ応援寄附金」の返礼品としても大変好評をいただいています。

情報発信基地 AKABIRA ベース

2015年6月、幌岡町にオープンした情報発信基地「AKABIRA ベース」。赤平市特産品推進協議会が赤平のスイーツや米・野菜などの販売・PRを展開し、その場で食べられるフードメニューも充実。赤平に来てまずはおさえておきたい定番の商品が手に入ります。ここで観光マップを手にした方が自分の足でさらに美味しいものを探しに出かけられるような拠点（ベース）づくりをしています。

赤平でロケをしたドラマ24『不便な便利屋』（テレビ東京）のギャラリーを併設し、ロケ地めぐりのスタートとしても最適です。

医療・保健・福祉

Medical care,
Health and Welfare



できるときに、できることを、楽しく！

高齢化率が高いのは、知識と経験を積んだ諸先輩が多く暮らしているということ。
この経験を活かしたボランティア活動例があります。他市からも注目される市立病院の院内食堂「ほらん亭」です。病院経営が窮地に陥ったときに立ち上がった年齢層60代から80代の市民がボランティアで食堂を運営しています。まさに経験をいかしたパワフルな活動です。

大切なのは、支え合い。小さな力の結集が赤平の温かさとなります。住んで良かったと言えるまちであり続けられますように！

赤平市ボランティアセンター 黒坂 順子さん





1



2



3



4

1 あかびら市立病院病棟

3 市民スマイルウォーキング

2 幼稚園児と高齢者の交流

4 水中運動教室

信頼され、選ばれる病院をめざして

2015年4月、市立病院に新病棟がオープンしました。それに合わせて名称を市立赤平総合病院から「あかびら市立病院」に変更して、新たなスタートをきりました。

新病棟は個室を増やし、病室や廊下の広さを改善するとともに、ベッドには離床センサーを配置するなど、快適性と安全性を高めています。

引続き人工透析や訪問看護、各種健診などの充実をはかり、医療サービスの向上に努めています。

これからも地域医療の中核として「市民に愛され、信頼され、選ばれる病院」をめざしていきます。

長く元気に暮らせるまち

赤平市では健康寿命の増進をめざして、各種健康診断や保健指導、健康相談などを充実させています。

北翔大学などとの連携による「地域まるごと元気アッププログラム」では、高齢者が軽体操や昔懐かしい遊びに取り組んでいます。いきいきと自立した生活を続けるため、積極的に外出する気持ちを持つ高齢者が増えています。

共通の趣味を持つ仲間同士が集まるサークル活動も盛んです。市民総合文化祭や東公民館まつりなど発表の機会も多く、日ごろから歌や踊りの練習、展示作品の制作に励んでいます。

高齢者本人や家族からは、健康・介護のみならず、生活全般に関する幅広い相談を受付けています。また、電話による定期的な安否確認や緊急通報システムの貸与などで、高齢者世帯を見守っています。

自力での除雪が難しい75歳以上の高齢者や身体障がい者の世帯には除雪費の一部を助成するなど、普段の生活で起こるさまざまな不安に対応しています。

住み慣れたまちで長く健康に暮らしてほしいと願って、あたたかいサポートを続けていきます。

子育てで教育

Child-rearing &
Education



赤平には「子育てをしやすい」理由があります。野球・サッカーといったスポーツや火太鼓などの文化活動を通じて子供たちの健全育成に力を入れていることや、高校生以下の医療費無料化などの助成制度が充実しています。クマゲラが生息するほどの自然に恵まれた環境、災害が少ないこと、北海道のほぼ中央に位置しているので旅行や買い物に便利なのも大きな魅力。共働き夫婦や子育て世代に嬉しいことが、このまちにはたくさんあります！

赤平市PTA 連合会 今井 基程さん





1



2



3



4



5

1 文京保育所発表会

2 こども体力測定会・走り方教室

3 茂尻小学校運動会

4 子どもまつり

5 交通安全

子育て世代をサポート

子どもの医療費（保険適用のもの）は高校生まで無料で、小児インフルエンザなどの予防接種費用の助成も行っていきます。子どもの健康を守るため、安心して受診できます。

市立保育所（文京・若葉）の保育料は国の基準の50%程度に安く設定。朝7時から開所し、早く出かける共働き世帯などに対応しています。市立赤平幼稚園は入園料が無料で、多子世帯の一部などには月々の保育料負担を軽減する措置があります。

生まれてから2歳になるまで、紙おむつ用ゴミ袋を無料交付するなど、長く子育て世代をサポートします。

中学校新校舎へ、高校通学を応援

平成30年度に旧赤平高校跡地に新校舎を建設し、中学校を移転統合します。少子化の中、統合によって適正な生徒数を確保することで、効率的な学習環境の整備や部活動の活性化をはかります。

高校生がいる家庭には、市が通学費を含む諸経費の一部を助成します。また、高校・大学などに進学した学生への奨学資金貸付制度を拡充し、償還開始時に赤平に住んで市内企業で働くなど一定の条件を満たすと、償還金が減額・免除されます。家計の負担を軽減し、進学・通学しやすい環境づくりを行っています。

豊かな心と体を育む青少年教育

リーダー養成事業として体験学習や宿泊研修を行う「ふるさと少年教室」。子どもたちが主体となって“国”や“むら（店）”を運営する「子どもまつり」。どちらも赤平独自の行事で、体験や遊びを通じて社会とのかかわりを学ぶ貴重な事業です。

中学生以下の子どもは総合体育館や市民プールといった市内の社会教育施設を無料で利用できます。また、北翔大学連携事業の「こども体力測定会・走り方教室」では運動会を前に速く走るコツを楽しく伝授するなど、体を動かすきっかけをつくって子どもの体力向上をはかっています。

歴史

History



多い年で 42 回のガイドで 1,000 名以上のお客さんが見学に訪れています。

私が石炭や炭鉱の話をしているときは皆さん静かなのですが、立坑建屋や旧自走枠工場内に入ると表情は一変します。会話をしながら案内していますが「実際に働いていたことのある人の話は生々しい」、何度も足を運んでくださる方からは「来るたびに立坑の表情が違う」との感想をいただきます。

石炭産業が戦後日本の経済振興を果たした役割は計り知れません。その一端を担い、先人たちが残してくれた歴史文化を、炭鉱遺産を通じて感じていただけたらと思います。

赤平コミュニティガイドクラブ TANtan 三上 秀雄さん



赤平は石炭とともに歩み、国のエネルギーを支える誇りを持って発展を遂げてきました。人口は最大で約 6 万人を数え、炭鉱を中心としたコミュニティがつけられました。仕事、日常生活、娯楽、安全を祈るまつり…。そこに暮らす人たちが家族のようにつながりあい、まちは活気にあふれていました。

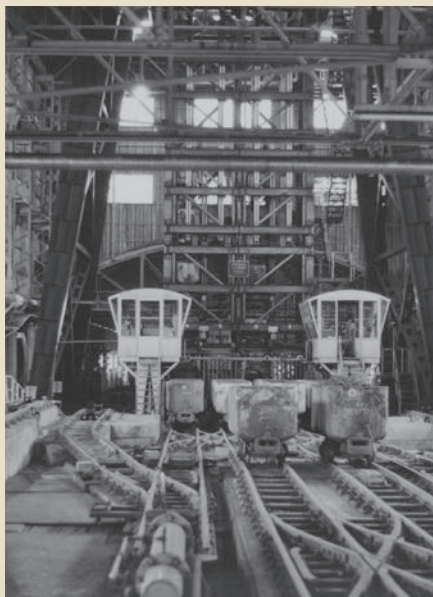
平成 6 年、住友赤平炭砒の閉山をもって坑内炭鉱の歴史に幕が下りました。閉山後二十余年、この間赤平はポスト石炭の模索を続け、赤平の自治がおびやかされる危機を乗り越えました。

まちの灯を消すな——先人たちが呼びかける声に、今ここに暮らす人たちがこたえ、現在の赤平があるのです。

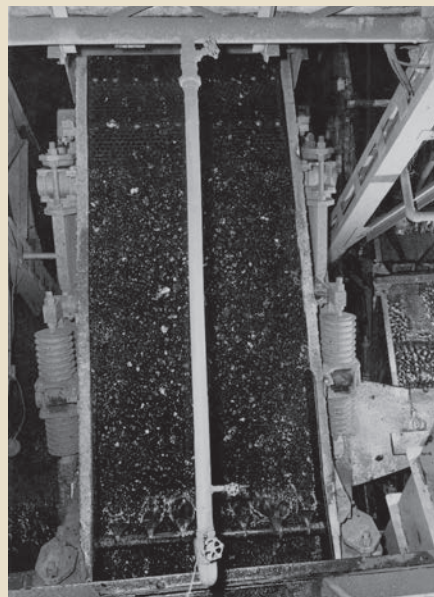
赤平の炭鉱と歴史



-350水平坑底昇降場の入坑



立坑内自動かわせ装置(ヤード)



選炭機



斜坑人車で入坑



貨車による石炭運搬(住友選炭機)



-550水平実車線



住吉獅子舞



昭和40年代 大町の風景



昭和40年 住宅街と遠方は豊里炭鉱



昭和30年代 豊里劇場



昭和42年 茂尻炭礦立坑



昭和40年 北炭赤間選炭機全景



選炭機と低い頃のズリ山(赤間)



昭和37年 茂尻駅



赤平の魅力、赤平の底力、たくさん知っていただきたい

赤平市長 菊島 好孝

赤平市は北海道のほぼ中央、雄大な空知川の流れとエルムの山々に囲まれた自然豊かなまちです。春は赤平公園に桜が咲き、「らんフェスタ赤平」では全道から蘭が集まって、まちは華やかな彩りを魅せます。北海道の春は赤平から始まります。

夏はエルム高原の緑が深まり、世界的な彫刻家である流政之氏の作品群を鑑賞しながら、ゆったりとした時間を過ごせます。「あかびら火まつり」では市民の募金で復活した花火大会が行われ、今では管内有数の規模を誇ります。

秋は田畑が黄金色に輝く収穫の季節。大切に育てられたお米や野菜は市民の食卓を越え、遠く道外へと広がっています。「産業フェスティバル」で紹介される地元企業のものづくり技術は、国（中小企業庁）の「元気なモノづくり中小企業 300 社」に小さなまちから4社が選ばれるなど、高い評価を受けています。

冬は一面真っ白な雪景色。市民は厳しい寒さに閉じこもるのではなく、スノーマン（3段の雪だるま）をたくさんつくって世界記録を樹立するパワーを持っています。2015年、地元出身の鈴木貴之さん脚本・監督の冬のドラマが赤平を舞台に撮影されました。市民総出で数ヶ月にわたるロケに協力し、キャストやスタッフの皆さんをあたたく歓迎しました。すばらしいドラマが全国放送され、赤平の大きな宣伝と地域活性化につながりました。

赤平は炭鉱閉山後、急激な人口減少や深刻な財政難など、たび重なる自治体存続の危機を経験しました。

この危機を脱して復活を果たすことができたのは、赤平に明るい人たちがいて、元気な企業があって、皆さんが手をつないでまちづくりを行ってきたからだと思います。

「市民力・産業力・行政力」の結びつき。これこそが赤平の持つ魅力であり、来るべき人口減少社会に立ち向かうための底力なのです。

赤平を知りたい、行ってみたい、住んでみたい、そして住み続けたい――

そう思っただけのように、これからもこのまちの魅力をお伝えしていきます。
本要覧が赤平を知っていただくための一助となりましたら幸いです。



伊藤副市長

菊島市長

多田教育長



北市議長

五十嵐副議長

赤平市勢要覽 資料編

Statistics

■ 位置及び面積

位置

東経 141 度 58 分 40 秒～ 142 度 09 分 10 秒
北緯 43 度 28 分 44 秒～ 43 度 38 分 44 秒

広ぼう

東西 14.090 km
南北 18.501 km

面積

129.88 km²



■ 平成 26 年月別気象状況

区 分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温℃	平 均	-7.2	-6.3	-2.0	4.6	12.9	18.6	21.6	21.3	15.7	8.4	3.5	-3.8
	最 高	5.7	6.4	11.2	25.1	31.1	34.8	31.1	31.9	28.3	22.1	16.2	8.5
	最 低	-20.4	-22.0	-16.7	-5.8	1.4	8.5	13.7	8.4	4.8	-2.7	-5.0	-15.3
湿度%	平 均	90	87	82	70	76	82	63	50	53	51	53	54
	最 小	56	49	27	18	20	24	36	41	41	29	35	41
	実効最小	87	84	76	59	62	65	46	46	52	50	52	53
降 雨 量 mm		3.0	2.0	6.0	17.0	53.5	83.0	178.5	214.5	129.0	95.0	61.0	14.0
降 雨 日 数		1	1	1	1	13	13	10	13	12	10	11	2
降 雪 量 cm		308	144	149	14	0	0	0	0	0	0	64	257
降 雪 日 数		25	20	15	1	0	0	0	0	0	0	4	23
降 水 量 mm		65.0	20.5	48.0	38.0	53.5	83.0	178.5	214.5	129.0	95.0	90.0	89.0
平均風速 m/s		1.9	2.1	2.2	2.4	2.3	1.9	1.8	1.6	1.8	1.9	2.1	2.0
最大風速 m/s		6.0	7.2	6.5	6.8	7.2	5.8	6.5	6.4	6.7	5.2	7.1	9.8
最 多 風 向		南東	南東	南東	南東	南南西	南西	南西	南東	南東	南東	南東	南東
天気日数	晴	8	13	10	18	12	11	13	17	15	18	10	7
	曇	10	11	15	10	16	15	16	9	10	8	15	16
	雨	0	0	0	1	3	4	2	5	5	5	2	0
	雪	13	4	6	1	0	0	0	0	0	0	3	8

資料／赤平消防署

■ 世帯数及び人口の推移

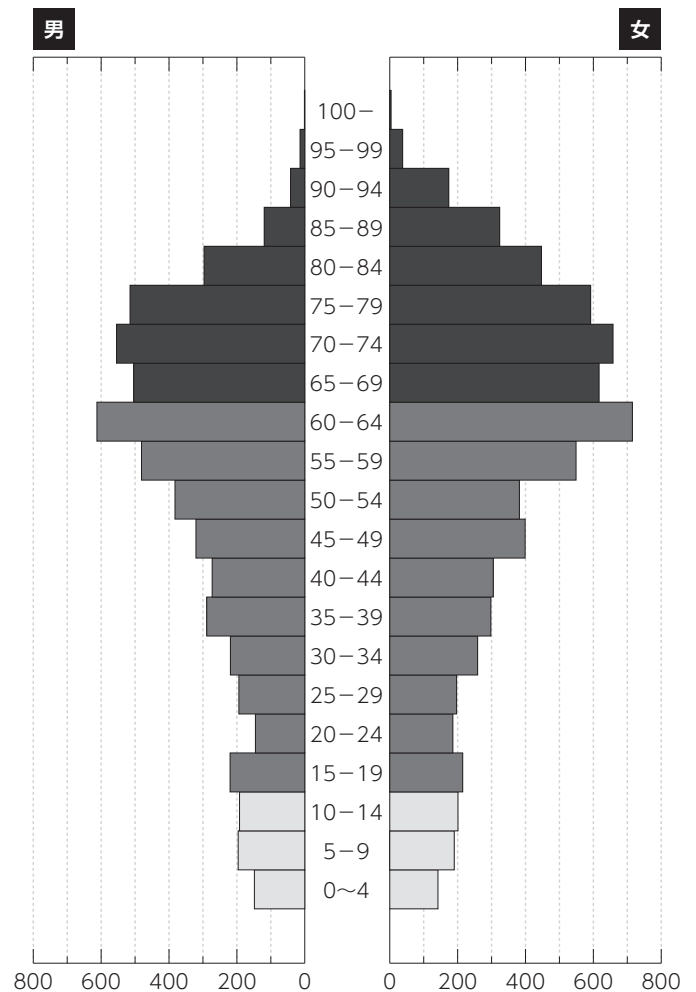
年次	世帯数	人口(人)			備考
		総数	男	女	
大正 13年	1,675	8,186	5,144	3,042	公簿調査 12.31 4.1分村
昭和 元年	1,849	9,745	5,196	4,549	常住世帯実査 12.31
18年	5,870	34,912	19,730	15,182	〃 町制施行 2.11
29年	10,960	56,226	28,758	27,468	住民登録人口 市制施行 7.1
35年	11,722	54,635	27,367	27,268	第9回国勢調査 10.1
40年	11,424	46,646	23,153	23,493	第10回国勢調査 10.1
45年	9,854	34,904	17,208	17,696	第11回国勢調査 10.1
50年	8,289	26,363	12,797	13,566	第12回国勢調査 10.1
55年	8,675	25,467	12,451	13,016	第13回国勢調査 10.1
60年	8,023	22,645	10,930	11,715	第14回国勢調査 10.1
平成 2年	7,302	19,409	9,147	10,262	第15回国勢調査 10.1
7年	6,884	17,351	8,123	9,228	第16回国勢調査 10.1
12年	6,635	15,753	7,327	8,426	第17回国勢調査 10.1
17年	6,202	14,401	6,632	7,769	第18回国勢調査 10.1
22年	5,585	12,637	5,745	6,892	第19回国勢調査 10.1
23年	6,627	12,375	5,686	6,689	住民基本台帳人口 9.30
24年	6,548	12,088	5,549	6,539	〃
25年	6,427	11,753	5,387	6,366	〃
26年	6,317	11,386	5,208	6,178	〃

資料／住民基本台帳・国勢調査

■ 年齢階級別人口

平成22年10月1日現在

年齢	男	女	総数	構成比%
総数	5,745	6,892	12,637	100.00
0-4	149	142	291	2.30
5-9	197	190	387	3.06
10-14	193	201	394	3.12
15-19	221	215	436	3.45
20-24	146	186	332	2.63
25-29	195	197	392	3.10
30-34	220	259	479	3.79
35-39	290	298	588	4.65
40-44	274	305	579	4.58
45-49	322	399	721	5.71
50-54	384	382	766	6.06
55-59	483	549	1,032	8.17
60-64	615	715	1,330	10.52
65-69	506	617	1,123	8.89
70-74	557	658	1,215	9.61
75-79	517	592	1,109	8.78
80-84	298	447	745	5.90
85-89	120	324	444	3.51
90-94	42	174	216	1.71
95-99	14	38	52	0.41
100-	1	4	5	0.04
不詳	1	-	1	0.01



資料／国勢調査

■ 工業の推移

各年 12 月末日現在 単位：万円

年	事業所数	従業者数	製造品出荷額
21 年	27	1,173	1,936,178
22 年	26	1,141	1,996,390
23 年	24	1,012	1,816,629
24 年	24	1,184	2,053,851
25 年	24	1,174	2,099,985

注) 4 人以上の事業所

資料／工業統計調査

■ 誘致企業

平成 26 年 12 月末日現在

企業名	創業年月	主要製品名	従業員数	進出元地
藤田運輸倉庫(株)	42・10	貨物運輸、自動車整備、物流センター	34	赤平市
北海道大賀クロージング(株)	45・1	紳士服	60	大阪府
茂尻興産(株)	10	木彫民芸品	5	赤平市
エースラゲージ(株)北海道赤平工場	46・8	スーツケース、鞆	134	大阪府
北野木材(株)	8	製材、チップ	5	芦別市
空知単板工業(株)	47・4	単板、化粧合板	195	滝川市
エルム工業(株)	48・9	アタッシュケース	35	赤平市
トルク精密工業(株)	49・10	金属プレス部品	97	神奈川県
宮志工業(株)	54・11	バッグ	31	赤平市
空知バッグ(株)	11	バッグ	34	赤平市
(株)川本鉄工所共和工場	56・12	鉄骨製品	19	赤平市
川本運輸(株)	12	運送業	9	赤平市
(株)いたがき	57・10	皮革製品	77	赤平市
(株)道央通商北空知支店	61・8	貨物運送業	22	岩見沢市
ヤマト運輸(株)赤平センター	63・8	宅配便業	24	東京都
岡田水産北海道(株)	11	乾燥ししゃも、海産物	73	山口県
(株)北食	2・7	水産物加工、販売	34	山口県
赤平製紙(株)	11	ティッシュ、トイレットロール	85	愛媛県
(株)ニッショウ	7・4	住宅建材用部材料	53	東京都
(株)北海道加ト吉	9	冷凍食品	99	香川県
(株)空知オートパーツ	9・5	自動車中古部品	13	砂川市
空知ウッドテープ(株)	12	ロール単板	9	赤平市
(株)植松電機	12・8	アクティブマグネットシステム	18	芦別市
(株)コスモ・バイオス	12	健康増進施設－低温サウナ	7	幌加内町
(株)ゼニアテックス	13・11	廃棄物リサイクル	6	赤平市
(株)北海道レザークラフト工房	18・5	皮革製品	5	赤平市
(株)日本レイシ	24・3	食料品製造業	11	北広島市

※従業員数については常用、臨時、パート含む

資料／商工労政観光課

■ 製造業の産業中分類別事業所数、従業者数、製造品出荷額等

平成 25 年 12 月末日現在 単位：万円

	25 年		
	事業所数	従業者数	出荷額等
総数	24	1,174	2,099,985
食料品	5	261	454,145
繊維工業	1	59	X
木材、木製品	5	279	596,281
家具、装備品	1	15	X
パルプ、紙、紙加工品	1	83	X
プラスチック製品	2	108	X
なめし皮・同製品・毛皮製造業	6	322	X
金属製品	1	21	X
電気機械器具	1	17	X
その他の製品	1	9	X

資料／工業統計調査

■ 商業の推移

各年 6 月 1 日現在 単位：百万円

年	商店数	従業者数	年間商品販売額
14 年	183	936	13,913
16 年	181	848	12,811
19 年	160	691	11,809
26 年	107	518	11,788

(注) 飲食店を除く

資料／商業統計調査

■ 産業分類別商店数、従業者数及び販売額

各年6月1日現在 単位：百万円

	14年			16年			19年			26年		
	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額	商店数	従業者数	年間商品販売額
総数	183	936	13,913	181	848	12,811	160	691	11,809	107	518	11,788
卸売業総数	13	76	1,468	11	56	1,063	9	41	713	5	21	1,379
小売業総数	170	860	12,445	170	792	11,747	151	650	11,096	102	497	10,409
各種商品小売業	-	-	-	-	-	-	1	26	X	-	-	-
織物・衣服・身の回り品小売業	23	57	700	22	88	829	19	41	392	11	30	253
飲食料品小売業	59	402	7,052	59	326	6,478	45	286	5,611	28	242	3,916
自動車・自転車小売業	6	17	344	7	15	297	5	13	272	5	13	195
家具・じゅう器・機械器具小売業	20	46	446	23	53	474	24	56	639	12	24	X
その他の小売業	62	338	3,903	59	310	3,669	57	228	X	46	162	4,192
無店舗小売業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	34	1,810

※卸売業の産業分類別の結果公表はされていない。

資料／商業統計調査

■ 観光行事集客数

単位：人

	23年度	24年度	25年度	26年度
らんフェスタ赤平（4月上旬）	9,476	10,950	10,366	10,631
赤平産業フェスティバル（10月中旬）	3,500	4,500	4,000	4,500
あかびら火まつり（7月第3土・日曜日）	21,000	33,000	36,000	38,000
市民花火大会（主催：観光協会） （7月第3日曜日）	内 15,000	内 12,000	内 15,000	内 18,000
計	33,976	48,450	50,366	53,131

資料／商工労政観光課

■ エルム高原施設別利用状況

単位：人

施設名	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	保養センター		120,641	115,940	117,388	113,782
ケビン村		4,110	4,287	4,123	4,540	5,109
家族旅行村		27,207	23,914	26,700	25,992	29,189
オートキャンプ場		3,617	3,488	3,932	3,826	3,808
合計		155,575	147,629	152,143	148,140	148,859

資料／商工労政観光課

■ 農家数

各年2月1日現在 単位：戸

年	総数
12年	174
17年	125
22年	104

■ 農家人口

各年2月1日現在 単位：人

年	総数
12年	692
17年	440
22年	314

資料／世界農林業センサス、北海道農業基本調査、北海道農業基本調査概況調査

■ 主要作物作付面積及び収穫量

年	水稻		小麦		そば		ばれいしょ	
	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
21年	402	2,070	47	107	-	-	-	-
22年	405	2,130	43	97	114	35	1	24
23年	416	2,270	47	126	103	27	1	8
24年	418	2,440	38	103	120	94	-	-
25年	417	2,420	36	114	128	68	-	5
26年	417	2,470	42	116	123	67	-	5

※主要作物の分類によって数字が出る時期が異なります。

資料／北海道農政事務所 公表数値

■ 幼稚園の概況

各年 5 月 1 日現在

年	園 数	学級数	教員数	園児数
23 年	1	3	5	78
24 年	1	4	5	75
25 年	1	3	5	81
26 年	1	4	5	74
27 年	1	3	5	69

資料／学校基本調査

■ 小学校の概況

各年 5 月 1 日現在

年	学校数	学級数	教員数	児童総数
23 年	5	39	63	466
24 年	5	40	61	435
25 年	5	40	59	414
26 年	3	27	46	384
27 年	3	25	40	353

資料／学校基本調査

■ 中学校の概況

各年 5 月 1 日現在

年	学校数	学級数	教員数	生徒数
23 年	2	12	28	241
24 年	2	9	29	241
25 年	2	9	30	249
26 年	2	9	30	246
27 年	2	9	32	241

資料／学校基本調査

■ 東公民館利用状況

各年度末現在 単位：人

	24 年	25 年	26 年
総数	9,905	10,391	10,839

資料／東公民館

■ 交流センターみらい利用状況

各年度末現在 単位：人

	24年	25年	26年
利用者数	53,787	55,559	62,693

資料／交流センターみらい

■ 主要公共スポーツ施設利用状況

各年度末現在

区分	24年	25年	26年
	人数	人数	人数
総合体育館（東大町3-4）	39,598	35,437	39,092
プール（東大町3-5）	10,480	9,714	8,509
虹ヶ丘球場（字茂尻180-4）	1,855	3,014	1,842
テニスコート（字赤平573）	742	1,070	3,321

資料／社会教育課

■ 医療施設の状況

各年10月1日現在 単位：人

年	施設数				病床数		
	総数	病院	診療所	歯科診療所	総数	病院	診療所
22年	12	2	5	5	516	516	-
23年	12	2	5	5	486	486	-
24年	10	2	3	5	486	486	-

資料／北海道地域保健情報年報

■ あかびら市立病院各科別取り扱い患者状況

各年度末現在 単位：人

年	外来					入院				
	22年	23年	24年	25年	26年	22年	23年	24年	25年	26年
総計	99,954	90,252	85,357	90,348	89,777	44,126	41,864	41,437	41,741	40,821
内科	44,597	40,671	39,699	41,315	43,912	34,039	31,598	29,975	31,149	30,246
小児科	9,397	9,255	7,271	7,924	6,984	241	234	119	170	93
整形外科	25,571	21,484	20,132	22,721	21,513	720	-	-	-	-
眼科	4,320	3,543	3,112	3,085	2,944	-	-	-	-	-
耳鼻科咽喉科	4,048	3,517	3,120	3,462	3,244	-	-	-	-	-
産婦人科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外科	6,120	6,232	6,469	6,248	5,855	9,123	10,020	11,343	10,422	10,482
皮膚科	2,402	2,440	2,604	2,701	2,544	-	-	-	-	-
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
泌尿器科	3,499	3,110	2,950	2,892	2,781	3	12	-	-	-
1日平均	411	370	350	369	366	121	114	113	114	112

(注) 1日平均患者数外来は診療日数による

資料／あかびら市立病院

■ あかびら市立病院医療従事者数

各年度末現在

年度	病床数	医療従事者数総数	医師	薬剤師	看護師	X線技師	臨床検査技師	その他の技術者	事務職員その他
22年	150	106	8	3	71	3	5	6	10
23年	120	95	9	3	61	3	4	6	9
24年	120	93	11	3	58	3	3	6	9
25年	120	95	9	3	61	3	4	7	8
26年	120	98	8	3	63	3	4	7	10

(注) 医療従事者数は正職員

資料／あかびら市立病院

■ 乳幼児医療費助成状況

各年度末現在 単位：人、件、千円

年度	受給資格者数	助成件数	助成額
24年	810	9,735	12,731
25年	770	12,529	17,183
26年	716	11,381	16,602

※ H24年度より中学生以下医療費全額助成

資料／社会福祉課

■ 重度心身障害者医療費助成状況

各年度末現在 単位：人、件、千円

年度	受給資格者数	助成件数	助成額
24年	528	8,903	37,789
25年	518	8,755	42,758
26年	511	8,584	37,000

資料／社会福祉課

■ ひとり親家庭等児童医療費助成状況

各年度末現在 単位：人、件、千円

年度	受給資格者数	助成件数	助成額
24年	481	2,718	4,204
25年	449	3,070	5,130
26年	427	2,339	5,614

資料／社会福祉課

■ 保育所の概況

毎年12月末現在 単位：人

年	保育所数	収容定員	在籍幼児数									職員数			
			年齢別							男女別		保育士	理人 給食調 他	計	
			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳 以上	計	男	女				計
24	2	120	8	15	20	21	35	32	131	78	53	131	26	10	36
25	2	120	6	16	22	18	22	36	120	69	51	120	31	7	38
26	2	120	5	17	19	24	22	23	110	57	53	110	29	7	36

資料／社会福祉課

■ 公営住宅及び改良住宅管理戸数

各年度末現在

年度	総数	市営住宅					道営
		公営	市有	特公賃	小計	改良	
24年	2,863	1,090	88	18	1,196	1,515	152
25年	2,839	1,098	88	18	1,204	1,483	152
26年	2,831	1,088	90	18	1,196	1,483	152

資料／建設課

■ 公園の状況

各年度末現在 単位：ha

年度	総数		児童公園		都市緑地		近隣公園		地区公園		総合公園		風致公園		あたり 市民1人 面積 ㎡
	個所	面積	個所	面積	個所	面積	個所	面積	個所	面積	個所	面積	個所	面積	
24年	28	41.64	17	5.62	5	14.53	2	2.39	1	3.00	2	13.20	1	2.90	34.4
25年	28	41.24	17	5.62	5	14.13	2	2.39	1	3.00	2	13.20	1	2.90	35.1
26年	28	41.24	17	5.62	5	14.13	2	2.39	1	3.00	2	13.20	1	2.90	36.2

資料／建設課

■ 上水道の普及状況

各年度末現在

年度	現在給水人口	給水率
24年	11,565	97.3
25年	11,241	97.3
26年	10,973	97.4

資料／上下水道課

■ 下水道の普及状況

各年度末現在 単位：ha・人・％・m

年度	処理区域		普及率	管渠延長		
	面積	人口		総延長	汚水	雨水
24年	434	9,932	83.2	94,009	83,357	10,652
25年	434	9,709	83.7	94,336	83,471	10,865
26年	434	9,487	84.2	94,409	83,471	10,938

資料／上下水道課

■ 出火件数

各年 12 月末現在

年	出火件数		
	総数	建物	その他
24年	5	1	4
25年	8	5	3
26年	6	3	3

資料／赤平消防署

■ 救急出動状況

各年 12 月末現在 単位：人

年	事故種別 人員	合計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
24年	搬送人員	514	-	-	1	21	6	-	72	4	6	349	54	-	-	1
25年	搬送人員	501	1	-	-	12	3	1	86	1	4	335	57	-	-	1
26年	搬送人員	529	-	-	-	23	4	1	77	1	6	367	50	-	-	-

資料／赤平消防署

■ 一般犯罪発生件数 及び検挙件数

各年 12 月末現在

年	発生
	総数
24年	94
25年	67
26年	57

資料／赤歌警察署

■ 凶悪犯罪発生件数 及び検挙件数

各年 12 月末現在

年	発生
	総数
24年	1
25年	1
26年	1

資料／赤歌警察署

■ 交通事故発生件数

各年 12 月末現在

年	発生
	総数
24年	22
25年	14
26年	12

資料／赤歌警察署

■ 一般会計款別決算の状況

(歳入)

単位：千円

	24年度		25年度		26年度	
	決算額	構成比 (%)	決算額	構成比 (%)	決算額	構成比 (%)
総額	8,731,002	100.0	8,986,940	100.0	8,686,055	100.0
1 市税	912,675	10.5	905,208	10.1	915,206	10.6
2 地方譲与税	68,905	0.8	65,635	0.7	62,494	0.7
3 利子割交付金	2,126	0.0	2,110	0.0	1,749	0.0
4 配当割交付金	903	0.0	1,839	0.0	3,646	0.0
5 株式等譲渡所得割交付金	246	0.0	2,509	0.0	1,946	0.0
6 地方消費税交付金	120,896	1.4	119,865	1.3	146,864	1.7
7 自動車取得税交付金	14,645	0.2	16,694	0.2	7,676	0.1
8 地方特例交付金	2,048	0.0	1,909	0.0	2,089	0.0
9 地方交付税	4,364,231	50.0	4,277,088	47.6	4,355,521	50.2
10 交通安全対策特別交付金	965	0.0	971	0.0	992	0.0
11 分担金及び負担金	68,880	0.8	63,466	0.7	50,605	0.6
12 使用料及び手数料	462,597	5.3	467,490	5.2	444,967	5.1
13 国庫支出金	1,172,867	13.4	1,419,045	15.8	1,225,336	14.1
14 道支出金	344,593	4.0	375,680	4.2	369,849	4.3
15 財産収入	21,788	0.3	36,302	0.4	37,409	0.4
16 寄附金	8,192	0.1	11,042	0.1	11,014	0.1
17 繰入金	11,864	0.1	6,206	0.1	11,849	0.1
18 繰越金	386,225	4.4	357,033	4.0	220,894	2.6
19 諸収入	108,368	1.2	113,351	1.3	78,338	0.9
20 市債	657,988	7.5	743,497	8.3	737,611	8.5

資料／企画財政課

(歳出)

単位：千円

	24年度		25年度		26年度	
	決算額	構成比 (%)	決算額	構成比 (%)	決算額	構成比 (%)
総額	8,373,969	100.0	8,766,045	100.0	8,360,997	100.0
1 議会費	59,304	0.7	53,386	0.6	63,134	0.8
2 総務費	627,931	7.5	671,873	7.6	280,012	3.4
3 民生費	1,988,166	23.7	1,934,419	22.1	2,004,812	24.0
4 衛生費	466,214	5.6	370,006	4.2	432,924	5.2
5 労働費	3,375	0.0	4,793	0.1	3,488	0.0
6 農林水産業費	64,146	0.8	79,739	0.9	88,780	1.1
7 商工費	141,226	1.7	165,655	1.9	142,780	1.7
8 土木費	724,281	8.7	936,494	10.7	831,358	9.9
9 消防費	102,443	1.2	78,430	0.9	423,524	5.1
10 教育費	389,117	4.6	616,259	7.0	345,417	4.1
11 公債費	873,553	10.4	885,946	10.1	933,033	11.2
12 諸支出金	1,674,077	20.0	1,645,716	18.8	1,684,068	20.1
13 職員給与費	1,255,717	15.0	1,323,329	15.1	1,115,573	13.3
14 予備費	0	-	0	-	0	0.0
15 災害復旧費	4,419	0.1	0	-	12,094	0.1
16 繰上充用金	0	-	0	-	0	0.0

資料／企画財政課

■ 赤平市年表

安政 4年 (1857)	5.17	松浦武四郎、空知川沿岸の石炭を発見	昭和 15年 (1940)		赤平～歌志内道路完成
明治 6年 (1873)	10.7	榎本武揚ら石炭調査で空知川を遡上	昭和 18年 (1943)	2.11	町制施行
明治 21年 (1888)		道庁建築課の吉田民治、木材伐採で人夫を引率し中赤平（現住吉）に来地	昭和 19年 (1944)	2.1	赤平町農業会発足
明治 23年 (1890)	2.8	吉田民治、同志 6人と現在の住吉町の土地 70万坪払下げ出願。この時仮の地名「赤掌」と記載	昭和 21年 (1946)	4.20	赤平スポーツ連盟設立
明治 24年 (1891)	6月	鶴林恵熊ら 6戸、百戸に入植	昭和 22年 (1947)	4.5	第 1 回町長選挙（公選）、三上貫一氏当選
明治 25年 (1892)	6.20	山口県人竹部嘉兵衛、小作人 2人と上幌倉（現字豊里）に入植		5.1	赤平中学校、茂尻中学校設立
明治 27年 (1894)		百戸講元市平、水稻試作に成功。百戸寺子屋式授業、後藤政重教師が開場		9.1	赤平町消防団（公認 7分団編成）設置
明治 28年 (1895)	3月	石川県団体（寺西幸三郎団長）が上赤平に入地	昭和 23年 (1948)	3.7	赤平町警察設置
	4.4	三重県団体（板垣資夫団長）が、上平岸（現平岸地区）に入地		4.20	赤平町農業協同組合発足
	9.26	文豪国木田独歩、入植地選定のため歌志内から山を越え空知川沿岸に来訪		8.16	赤平商工会発足
	10.10	平岡精一、中幌倉（現幌岡町）に入地。17日には中上貞太郎ら入地 空知川右岸道路十勝道路、空知太～百戸が開通	昭和 24年 (1949)	1.20	幌岡中学校開校
明治 29年 (1896)	3月	真宗高田派説教所（現浄光寺）上平岸 27 線に設立、同寺を寺子屋式教授場に開放。寺田かく道住職教育の任にあたる		5.1	道立滝川女子高等学校赤平分校（定時制）茂尻分教室発足。11月1日、町立赤平高等学校と改称
	10.24	上赤平 20 線に笹小屋を建て、寺子屋式教授場開場	昭和 25年 (1950)	1.1	百戸小学校大谷沢分教場設置（昭和 30 年、旭丘小学校として独立）
明治 30年 (1897)	1月	滝川～百戸道路完成		8.10	町立赤平病院開院
	7.1	奈江村から歌志内村分村、赤平は歌志内村に所属		9.1	住友赤平中学校開校
明治 38年 (1905)	11.30	幌岡用水路着工、翌年 6 月完成		11.19	町役場の議事堂から出火、庁舎全焼
明治 42年 (1909)	4月	中赤平に巡査駐在所設置	昭和 26年 (1951)	4.1	町立赤平高等学校全日制を施行
大正 2年 (1913)	11.10	滝川～下富良野鉄道開通式、上赤平駅（現赤平駅）、平岸駅開駅		6.1	赤平中学校住吉分校開校（翌年、住吉中学校として独立）
大正 4年 (1915)	9.11	上赤平郵便局開局	昭和 28年 (1953)	3.31	町立赤平高等学校道立に移管。同茂尻分校は町立の定時制単置校として独立
大正 7年 (1918)	7.13	大倉鉱業、茂尻礦開鉱。18 日神社建立	昭和 29年 (1954)	7.1	市制施行（住民登録人口 56,925 人）
	12.28	茂尻駅開駅（貨物のみ扱い）		7.1	大谷沢を赤平市へ、高根を芦別市へ（境界変更）
大正 8年 (1919)		上赤平に魚菜市场設立	昭和 30年 (1955)	7.1	赤平市上水道給水開始
大正 11年 (1922)	4.1	歌志内村から分村。2 級町村赤平村となる	昭和 31年 (1956)	4.25	市立赤平病院准看護婦養成所開設
	5.1	赤平村第 1 回村議会議員選挙	昭和 32年 (1957)	2.13	赤平青年会議所発足
	11.11	上赤平郵便局で電信電話事務取扱開始		10.22	社会福祉協議会発足 市内でテレビ受信
大正 12年 (1923)	12.10	平班吊橋完成渡橋式	昭和 33年 (1958)	4.15	防犯協会設立
大正 14年 (1925)	10.26	茂尻郵便局で電信電話事務取扱開始		11.22	市立赤平総合病院新館落成
昭和 2年 (1927)	7.12	赤平橋吊橋架設	昭和 34年 (1959)	3.30	中央橋竣工、5月25日渡橋式
昭和 3年 (1928)	8月	出雲神社創立 茂尻炭礦職員会館に最初のラジオ取付け		12.10	し尿処理場竣工
昭和 4年 (1929)	4.1	1 級町村制施行	昭和 35年 (1960)	7.23	世界連邦平和都市宣言
	5.1	北海土功組合、かんがい溝の通水開始		9.19	北炭 3 山分離による新会社（万字、美流渡、赤間）発足
昭和 12年 (1937)	7.1	豊里炭礦開鉱	昭和 36年 (1961)	5.1	赤平市消防本部設置
昭和 13年 (1938)	6.30	北炭赤間礦開鉱	昭和 37年 (1962)	4.1	双葉中学校開校
	8.3	住友赤平礦開鉱		4.1	市立赤平東高等学校開校
			昭和 38年 (1963)	2.10	住友赤平礦立坑完成
				8.25	百戸翠光苑開き
				9.22	第 1 回赤平市民文化祭
			昭和 39年 (1964)	3.31	市立赤平東高等学校、道立に移管
				4.24	交通安全都市宣言
				9.26	赤平市明るく正しい選挙都市宣言

昭和 40 年 (1965)	1.18	赤平市青少年健全育成都市宣言	昭和 57 年 (1982)	10.2	(株) 赤平振興公社設立	
	4.1	市立赤平高等学校を赤平西高等学校と改称		11.21	赤間小学校校舎落成式	
昭和 41 年 (1966)	9.11	黎明の像 (炭礦犠牲者慰霊碑) 除幕	昭和 58 年 (1983)	12.11	市庁舎・市コミュニティセンター落成記念式	
	12.2	赤平市章制定 (滋賀県、奥村栄三郎氏考案)		10.29	赤間 4 区跡地取得調印式	
昭和 42 年 (1967)	3.31	豊里礦閉山	11.20	市立赤平中学校校舎改築落成式		
	8.14	誘致企業第 1 号光生食品工業 (株) 創業開始	昭和 59 年 (1984)	2.12	茂尻地区字名地番改正告示	
	9.6	赤平市民会館落成式		3.1	赤平市立東公民館落成式	
7.31	学校給食センター完成	3.20		市立幌岡中学校閉校式		
昭和 43 年 (1968)	5.30	茂尻炭礦閉山	昭和 60 年 (1985)	8.30	赤平地方卸売市場新社屋落成式典	
		7.28		旭丘小学校閉校	2.4	平岸地区字名地番改正告示
昭和 44 年 (1969)	7.28	旭丘小学校閉校	昭和 61 年 (1986)	8.16	第 40 回国民体育大会バレーボール北海道予選会	
	1.23	精神薄弱者更生施設市立恵光園落成式		9.24	非核平和都市宣言	
	10.9	赤平スポーツセンター開所式		11.13	赤平排水機場落成式	
昭和 45 年 (1970)	12.26	市民スキー場とリフト完成オープン	昭和 62 年 (1987)	11.16	赤平市立労働資料収集センター落成式	
	3.24	住吉中学校閉校		11.24	市立幌岡小学校新校舎落成式	
	8.1	赤平市街地区町名改正		4.14	市立赤平総合病院診療費コンピューター処理業務開始	
昭和 46 年 (1971)	8.25	市無形文化財第 1 号に住吉獅子舞を指定	昭和 63 年 (1988)	12.14	赤平市総合体育館・ふれあいホール・産業研修ホールの 3 施設落成式	
	7.14	第 1 回赤平市民祭り (16 日まで)		4.1	赤平幼稚園落成式並びに開園式	
	2.27	空知炭礦 (株) 赤間礦閉山		6.18	第 37 回全道高等学校学校柔道大会	
昭和 47 年 (1972)	7.1	葬斎場竣工、使用開始	昭和 64 年 (1989)	8.2~4	第 36 回全国高等学校柔道大会	
	9.25	赤平市の花に「菊」を制定		9.17	防犯都市宣言	
	10.23	百戸橋拡幅竣工、渡橋式		平成 元年 (1989)	5.22	虹ヶ丘球場落成式
	12.1	赤平八十年史発刊			8.4	国道 38 号赤平バイパス起工式
昭和 48 年 (1973)	12.1	赤平八十年史発刊	平成 2 年 (1990)	9.4	第 25 回東日本実業柔道団体対抗大会	
	2.12	赤平市民会館開館		1.26	赤平観光協会設立発会式	
	7.31	赤平市民憲章制定		3.24	赤平西高等学校閉校式	
昭和 49 年 (1974)	12.27	住友赤平小学校校舎落成	平成 3 年 (1991)	4.8	赤平高等学校開校式	
	2.16	住友赤平高等鉱業学校、閉校		4.10	いずみ幼稚園開園式	
	4.5	市立文京・若葉両保育所開設		7.22	北海道社会人卓球選手権大会	
昭和 50 年 (1975)	11.4	郷土館開館	平成 4 年 (1992)	9.6	第三セクター赤平製紙 (株) 設立	
	3.1	武道館会館		9.11	はまなす国体炬火リレー	
	3.31	住友赤平中学校と双葉中学校が統合		9.18~20	第 44 回国民体育大会柔道競技会	
	11.22	「赤平市基本構想」策定		12.25	若葉保育所新築落成開所式	
昭和 51 年 (1976)	12.19	赤平山研修センター・憩の家完成	平成 5 年 (1993)	3.11	赤平東高等学校閉校式	
	4.1	市立平岸保育所開設		4.26	赤平公共下水道通水式	
	4.1	赤平中央中学校統合校舎に移転		5.15	北海道パラシュートプレーン協会道央専用空港開設	
昭和 52 年 (1977)	11.5	旧双葉中学校を改築し赤平小学校としてスタート	平成 6 年 (1994)	6.9	エルム森林公園オープン	
	11.15	赤平工業団地の公募開始		8.1	パークゴルフ場オープン (翠光苑)	
	4.18	特別養護老人ホーム「愛真ホーム」開設		8.25	赤平開基百年記念式典	
昭和 53 年 (1978)	12.25	道立赤平西高等学校校舎改築完成	平成 7 年 (1995)	12.9	ズリ山展望広場オープン	
	1 月	住友赤平水力採炭本格操業開始		12.22	コミュニティ広場オープン	
	2.25	市立茂尻小学校落成式		7.20	新赤平の歌「火囃節」市民まつりで披露	
昭和 54 年 (1979)	4.1	赤平市浄化センター操業開始	平成 8 年 (1996)	6.8	赤平スカイスポーツ振興センター開所式	
	8.28	エルムダム起工式		10.22	新成大橋開通 (渡橋式)	
	9.23	道立赤平西高等学校開校 30 周年、校舎落成記念式典		3.28	住吉保育園閉園式	
昭和 55 年 (1980)	10.1	住友石炭鉱業赤平礦業所を住友石炭赤平炭礦 (株) に分離独立	平成 9 年 (1997)	2.25	住友石炭赤平炭礦 (株) 閉山	
	3.1	赤平市立図書館完成		3.31	住吉小学校閉校 (4 月 1 日、豊里小学校に統合)	
	4.1	「赤平市民会館」を「文化会館」に名称変更		4.6	(株) 赤平花卉園芸振興公社設立総会	
昭和 56 年 (1981)	3.23	赤平市の木に「カエデ」を制定	平成 10 年 (1998)	6.6	市立赤平総合病院診療棟・管理棟全面改築落成	
	9.19	赤平市役所新庁舎落成		6.10	住友石炭赤平炭礦 (株) 赤平鉱業所閉山式	
	10.19	市役所新庁舎開庁式・業務開始		7.3	エルム高原・家族旅行村開村式	
昭和 57 年 (1982)	10.26	赤平経済センター落成式	平成 11 年 (1999)	7.16	赤平市・加賀市友好都市決意宣言	
	3.1	赤平市勤労青少年ホーム開館				

平成 6 年 (1994)	12.21	「赤平バイパス」開通式、「虹かけ橋」渡橋式	平成 20 年 (2008)	3.7	市立赤平総合病院人工透析室新築工事完成、透析センターオープン
平成 7 年 (1995)	1.24	(株)赤平花卉園芸振興公社施設落成記念式典	6.22	文化会館休館	
	9.29	赤平市保養センター・ケビン村オープン	9.27～29	赤平市民映画「0からのRE-スタート」初上映	
	10.10	赤平市・加賀市友好都市提携調印式(加賀中央公園)	9.30	スポーツセンター、武道館休館	
平成 8 年 (1996)	11.30	赤平第2工業団地完成披露	平成 21 年 (2009)	7月	第61回毎日書道展 赤平市出身 石飛博光氏 文部科学大臣賞受賞
	2.26	赤平市の鳥に「ヤマガラ」を制定	平成 22 年 (2010)	6.12	彫刻家 流政之氏 の作品「SAKIYAMA」寄贈 除幕式 (その後、平成26年までに10作品設置)
	4.1	総合行政システム運用開始式	9.30	赤間小学校耐震化工事完成	
平成 9 年 (1997)	2.16	赤平高等学校定時制課程閉課記念式典	10.16	第1回赤平産業フェスティバル開催	
	5.6	エルムダムたん水試験開始	11.22	赤平デジタルテレビ中継局建設工事完成	
	7.18	赤平市・韓国江原道三陟市友好都市間交流協定調印式	平成 23 年 (2011)	3.31	連結実質赤字比率が黒字化
平成 10 年 (1998)	9.28	平岸中央公園竣工式	6.12	赤平市民プールオープン(現在地に移転新築)	
	2.1	たさかわ農業協同組合発足	11.11	茂尻小学校耐震化工事完成	
	3.15	みずほ保育園閉園式	平成 24 年 (2012)	6月	赤平市立小・中学校の適正規模・適正配置が答申
	6.30	市立平岸保育所閉所	10.26	豊里小学校耐震化工事完成	
平成 11 年 (1999)	7.25	赤平パークゴルフ場完成	平成 25 年 (2013)	4.1	道立高等学校配置計画により赤平高等学校募集停止
	11.5	YOSAKOIソーランあかびら華炎設立総会	6.12	第69代横綱 白鵬関 表敬訪問	
	1.9	ほろおか交流センター開所式	10.10	消防広域化協定調印式開催	
	9.30	赤平市・中国湖南省汨羅市友好都市交流協定調印式	11月	新しいコントリースインが決定	
平成 12 年 (2000)	10.17	交流センターみらい開館	平成 26 年 (2014)	3.31	住友赤平小・平岸小学校が閉校(4月1日、茂尻小学校と統合)
	2.12	市立文京保育所改築記念式	10.8	市制施行60周年記念式典	
	3.11	市立赤平総合病院附属看護学院閉校記念式典	11.1	道立赤平高等学校閉校記念式典	
平成 13 年 (2001)	4.3	地域子育て支援センター開設	平成 27 年 (2015)	1月～3月	赤平市出身 鈴木貴之氏 が脚本・監督を手掛ける連続ドラマ「不便な便利屋」(テレビ東京)、赤平市内で撮影(4月～放送)
	3月	赤平市史発刊	2.28	「1時間で作るスノーマン(3段の雪だるま)の数」で世界記録を樹立	
	4.6	らんフェスタ赤平2001開催	3.31	道立赤平高等学校閉校	
平成 14 年 (2002)	9.26	道道赤平奈井江線改良(歌志内トンネル)工事貫通式	4.1	市立赤平総合病院が「あかびら市立病院」に改称 新病棟オープン	
	3.31	幌岡小学校閉校	6.28	情報発信基地「AKABIRA ベース」オープン	
	8.25～9.1	赤平創作市民ミュージカル「虹に向かって」公演	12.1	赤平消防署消防総合庁舎運用開始(現在地に移転新築)	
平成 15 年 (2003)	9.14～15	全国鉱山・炭鉱地域づくりサミット開催	平成 28 年 (2016)	1.29	「赤平市しごと・ひと・まち創生総合戦略」策定
	1.24	4市5町による「中空知地域任意合併協議会」設置(翌年、解散)			
平成 16 年 (2004)	7.3	天皇・皇后両陛下下行幸啓			
	9.26～29	第6回国際鉱山ヒストリー会議赤平大会開催			
	7.1	市制施行50周年			
平成 17 年 (2005)	3.31	百戸小学校閉校(4月1日、茂尻小学校へ統合)			
	4.1	赤平幼稚園といずみ幼稚園が統合し、旧幌岡小学校に赤平幼稚園が開園			
平成 18 年 (2006)	3.1	「あかびらスクラムプラン」策定			
	5.1	旧いずみ幼稚園跡 炭鉱歴史資料館オープン			
	6月	空知産炭地域振興センターからの長期借入金に関する報道のちに一括償還			
平成 19 年 (2007)	9.30	ズリ山階段流しそうめん日本一認定			
	3.1	「赤平市財政健全化計画」策定			
	3.31	赤平小学校閉校(4月1日、通学区域を住友赤平小、豊里小、赤間小の3校に分割)			
	3.31	茂尻中学校、平岸中学校閉校(4月1日、赤平中央中学校へ統合)			
	3.31	公民館休館、郷土館休館			
6.20	地方公共団体の財政の健全化に関する法律が成立 財政再生団体入りの危機				
7月	赤平市出身の全日本女子バレーボール 庄司夕記選手 ロシア大会でデビュー				

赤平市章



頭文字「赤」を図案化し、その左右に開く両端で将来飛躍発展の市勢を表わし、外円は市民の和（輪）向上団結を示し、明日に躍動する赤平市を描いたもの。

昭和41年12月2日制定

都市宣言

世界連邦平和都市宣言

われわれは、全世界の恒久平和と全人類の繁栄を念願し、ここに世界連邦建設の趣旨に賛同する都市であることを決意し、市民の平和への強い意志に基づき、赤平市を永遠に平和都市として全世界に宣言するとともに戦争につらなる一切の行為を否定し市民あげて恒久平和確立に不変の努力をすることを誓うものである。

上記宣言する。

昭和35年7月23日
赤平市議会

交通安全都市宣言

わが国産業経済の伸長と国民生活の向上は、近時まことに目覚ましいものがあり、当赤平市も近代的生産都市として市勢発展の一途を辿りつつあるが、反面、当市は地形上狭陸なる山間部に市街並びに炭鉱住宅が密集しており、加えて生産都市として必要である主要道路は、滝川～釧路間1級国道38号線のみが輸送路線であることから、最近の車両の急増並びに大型化により路面交通は既に飽和点に達し市民は常に交通事故の危険にさらされて日常生活を送っている現状である。

もとより交通災害を防止するための措置はそれぞれの分野において積極的に実施されており、市もまた道路の新設、整備については今後も努力を惜しまぬ所存であるが、われわれは人命尊重の理念のもとに広く市民の協力によってこれに対処する必要を痛感するものである。

よって市民の安全を確保し交通事故の絶無を期し明るい住みよい環境を確立するため、ここに赤平市を「交通安全都市」とすることを宣言する。

昭和39年4月24日
赤平市長

公明選挙に関する宣言

選挙は、民主政治の基盤であり、民主政治の健全な発展のためには選挙が公明かつ適正に行わなければならない。このときにあたり、本市は全市民の希望と総意を結集し、公明選挙の実現を期し、「公明選挙都市」たることを宣言する。

昭和39年9月26日
赤平市

青少年健全育成に関する宣言

近時青少年問題の前途はまことに憂慮されるべき状態にある。

このときに当たり赤平市は次代を担う青少年の健全なる育成を全市民の念願とし、その総意を結集して、茲に「青少年健全育成都市」たることを宣言する。

昭和40年1月18日
赤平市

非核平和都市宣言

世界平和と核兵器の廃絶は、人類共通の願いであり、赤平市民の心からの希求であります。

しかるに、この40年間、核兵器は増えつづけ、性能は高度化し、その競争は、宇宙空間まで拡大しました。

ひとたび、核戦争が起されば、人類は絶滅するのみであります。

郷土の美しい恵まれた自然と豊かな文化を守り、平和な未来を子孫に引き継ぐことは、私たちの義務であります。

赤平市民は恒久の平和を願い、しあわせな市民生活を守る決意を表明し、ここに「非核平和都市」となることを宣言します。

昭和60年9月24日
赤平市

防犯都市宣言

犯罪のない明るい平和な郷土づくりは、私たち赤平市民の心からの願いであります。

しかしながら、近年における複雑多様化の進む社会情勢のもとで、犯罪は増加の一途をたどっております。

社会環境の悪化は赤平市民、特に次代を担う青少年にとっても誠に憂慮にたえません。

私たち一人ひとりが、この現実的姿を十分認識するとともに、今こそ地域社会の連帯感をより緊密なものにして、積極的に防犯活動を推進し、安心して暮らせる郷土を作り上げなければなりません。

ここに赤平市民の総意を結集し「防犯都市」を宣言します。

昭和62年9月7日
赤平市

赤平市民憲章

わたくしたちは、空知川にはぐくまれ石炭によって発展した赤平の市民です。この郷土に誇りと責任を持ち、より豊かなより美しいまちをきずくため、この憲章を定めます。

1. いたわりと笑顔をまちにひろめましょう。
1. よく学びつくり出す芽をそだてましょう。
1. きれいな花と緑でまちをつつみましょう。
1. たくましいはたらく力をのばしましょう。
1. みんなで語りみんなのまちをつくりましょう。

- 発行／北海道赤平市
- 企画・編集／企画財政課
- 印刷／榊光文堂



- Akabira 4 Seasons -